

斐太北小 ESDだより

Education for Sustainable Development(持続可能な社会の創り手を育む教育)

一步上の自分へ —この言葉の意味をみんなで結び直して再定義—

本校では「一步上の自分へ」という言葉を、10年以上前から大切にしてきました。今年度、そして来年度に向けて、この言葉の意味をあらためて見つめ直し、学校の合言葉として位置付けています。

「一步上」と聞くと、誰かより上に行くこと、もっとがんばることを想像するかもしれません。しかし、斐太北小学校が大切にしている「一步上」は、人と比べて上に行くことや立つことではありません。

比べる相手は、昨日の自分です。昨日より少し考え方直したこと、少し勇気を出したこと、少し相手の気持ちを想像できしたこと。その一つ一つが、「一步上の自分へ」つながっています。

本校では、ESD(持続可能な開発のための教育)を土台に、ユネスコスクールとして、よりよい未来や社会について考える学びを進めています。その中心の一つが、地域を舞台にした「みらい学習」です。

地域の方に話を聞いたり、実際の場所を訪れたりしながら、「なぜだろう」「このままでいいのだろうか」「自分たちにできることは何か」と問い合わせていく子どもたちの姿があります。正解を教えてもらうのではなく、自分たちで考え、話し合い、選び直していくことが、未来につながる学びとなっています。

また、教科学習では、単元内自由進度学習にも取り組んでいます。学ぶ順番や進め方を自分で選びながら、「分かったつもり」で終わらせず、「納得できるまで考えたい」「もう一度やり直したい」と、自分の学びを調整する姿が見られるようになってきました。立ち止まったり、やり直したりすることも、次の一步につながる大切な時間です。

この「一步上の自分へ」という合言葉は、子どもたちだけのものではありません。教職員もまた、授業や学校づくりを振り返りながら、「昨日より少しでもよくするにはどうするか」を問い合わせています。子どもも大人も、共に学び続ける学校でありたいと考えています。

大きなジャンプはいりません。それぞれの歩幅で、確かな一步を。

斐太北小は、みらい学習や斐太北型イエナプラン教育を通して、「一步上の自分へ」を合言葉に、未来につながる学びをこれからも育んでいきます。



1月8日始業式で合言葉を再定義



家庭でできる「一步上の自分へ」

学校で大切にしている「一步上の自分へ」の合言葉を、ご家庭でも使ってみませんか。特別なことをする必要はありません。

「今日はどんな一步だった?」「昨日とちがったところはどこかな?」「次はどうしたいと思っているの?」

結果をほめるよりも、考えたこと・迷ったこと・選び直したことに耳を傾けていただければ、子どもは「自分の一步」に気付きやすくなります。

正解を教えるより、一緒に考える時間を大切にすること。それが、家庭でできる「一步上」です。